



みのぶ



小学校の先生6名が農作業体験（8月2日、上島さん宅でメロン箱詰め、三浦さん宅でレタス定植）

■発行日/平成29年9月1日/No.1385号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

小麦集出荷調製施設に激励来訪

7月28日、高橋美唄市長が峰樺施設と峰延地区収穫機械利用組合を激励に訪れました。



施設内で森川組合長・伊藤専務理事と懇談する高橋美唄市長

峰延農協年金友の会が スポーツ大会開催

（中西勇夫会長）のスポーツ大会が峰延小学校体育館で開催されました。



高橋美唄市長一行は、美唄市内にある11ヶ所の集出荷調製施設の訪問で当JAが最後となつたものです。高橋市長は、麦の刈取り状況や品質等を聞き取り、森川組合長、伊藤専務理事、篠原営農販売課長が対応しました。

高橋美唄市長は、安全な作業に努め、良品質麦がたくさん出荷されるように願っていますと述べていました。

このスポーツ大会はスポーツ競技を通して会員相互の友好の輪を広げるとともに健康増進を図ることを目的に毎年開催を続けていて今年で36回目となります。

例年通り真夏の風通しの悪い屋内での開催ですが、この日は雨天で幸いにして気温が低く、競技で身体を動かしたときに汗をかく程度の気温でした。

参加者は110人余り、中西会長の挨拶、JA安達常務理事の祝辞に続いて全員で準備体操を行い、

第7回（8月）定例理事会の開催について

8月25日開催の第7回定例理事会において次の事項が決定・協議されました。

◇付議事項

1.玄米ばら施設のシステム導入工事について

◇協議事項

1.30年産米「生産の目安」の基本的な考え方による組織討議について

おくやみ申し上げます

野末吉さん (81歳) 7月30日 岩見沢市峰延町701

酒巻キクエさん (92歳) 8月24日

美唄市光珠内町上中の沢

『善因善果は必然の

報徳

輪廻

翁のことばに、善因には善果があり、悪因には悪果を結ぶことは、誰でも知っていることだ。しかし、この因果が、目前に兆して目前に現れるものならば、人々は恐れもし、用心もして、善種を植えて、悪種を除くはずなのだが、具合の悪いことに、今日時々種の結果は、目

のうちに現れるものだから、人々は迷つてしまつて、恐ろしさを感じない。嘆かわしいことではないか。こうして善種をまかない上に、前世の宿縁があつて、何とも致しない方がない。これが世人の迷いの根元なのだ。けれども世の中万物の事物は、原因がないものはなく結果のないものはない。一国の治乱、一家の興廃、一身の禍福、みんなその通りなのだ。恐れもし、用心もして、決して迷つてはならない。

（夜一一九）



お互いの取組み概要説明と意見交換

島根県からハーブ米の 視察に訪れる

8月3日、島根県から「島根おおちハーブ米生産部会」一行が当JAの「香りの畦みちハーブ米」の視察に訪れました。

訪れたのは、生産部会の会長を始め3名の生産者、JAの担当者、JAは「香りの畦みちハーブ米生産部会」の郷野会長、石川副会長、伊藤専務理事と担当職員2名が対応しました。

最初に当JA三階会議室でお互いの取組み概要を説明し意見交換、試食等を行い、ハーブ米生産に取組む前川和隆さん（峰樺一区）の

圃場に移動し畦に植えてあるハーブ（アップルミント）を視察します。島根おおちハーブ米はハーブの一種のレッドクローバーを稻刈り後の水田で育て田植え前に緑肥として鋤込み土づくりに活用し化学肥料を使用しない栽培方法ということでした。

28年度食料自給率38% 過去2番目の低水準

農林水産省は8月9日、平成28年度の食料自給率がカロリーベースで前年度の1ポイント減の38%になつたと発表しました。前年度を下回るのは6年ぶり、米の大凶作で37%だった平成5年に次ぐ史上2番目の低水準となりました。

北海道で長雨による日照不足、台風被害で小麦と大豆が不作だつたことが主な原因のほか、肉を中心の食生活の欧米化が原因です。

食料自給率は、国内の食料消費を国内の農業生産でどの程度賄えるかを示し、政府は平成25年度に、食料・農業・農村基本計画で平成37年度にカロリーベースで45%にする目標を掲げているが、今回の低下で達成は難しくなりました。カロリーベースの自給率は小数点以下を含めて表すと37.58%で、前

年から1.9ポイントの低下となります。平成27年度までは6年連続で39%を保っていました。

生産額ベースの自給率は、野菜及び果実について輸入額が減少し国内生産額が増加（ニンジンや大根等の野菜の価格が上昇）したことにより68%となりました。平成26年度の64%から2年連続で前年度を上回りました。

7月の道内は やつぱり暑かつた

7月の北海道は記録的な暑さであつたことが、気象データから判りました。気象庁の気象データによると、7月前半は史上最多の5日の猛暑日（最高気温35℃以上の日）、23年振りの真夏日（最高気温30℃以上の日）11日連続を観測、後半はやや暑さはおさまつたものの前半の記録的な暑さの影響で7月全体として記録的な暑さになっている所が多く、7月の月平均気温は、道内の気象観測地点173地点のうち37地点で観測史上1位となり、史上2位、3位までを含めると116地点（道内の観測地点の67%）が観測史上3位以上となる記録的に暑い1ヶ月となりました。

市役所からのお知らせ 農地中間管理事業に係る農地借受希望者を募集します

農地中間管理事業により農地借受を希望される方は、あらかじめ登録手続きが必要となりますので、次の内容を確認のうえ、応募願います。募集は、年2回実施しております。

○応募方法 「農用地等の借受希望申出書」に必要事項を記入のうえ、郵送又は持参により借受希望される区域の市役所担当課へ提出願います（平成28年5月以降に応募された方の提出は不要）。申出書及び説明資料は、各市役所で配布のほか、各市のホームページからもダウンロードできます。また、JAみねのぶ農業経営課にも配置しております。

○募集期間 平成29年9月1日(金)～9月29日(金)まで(郵送の場合、当日消印有効)

○提出先・お問い合わせ先

美唄市役所 農政課農政係(電話:0126-63-0114)〒072-8660

美唄市西3条南1丁目1番1号

岩見沢市役所 農務課農業経営係(電話:0126-23-4111)〒068-8686

岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

三笠市役所 農林課農林係(電話:01267-2-3996)〒068-2192 三笠市幸町2番地

この地域の本年7月の月平均気温と平年値（ある一定の年月間の平均の値）を比較すると、美唄は平年値19.9℃に対し月平均気温は22.2℃（史上2位）で2.3℃高く、岩見沢は平年値19.7℃に対し月平均気温は22.3℃（史上3位）で2.6℃高くなりました。

小学校の先生が農作業体験

8月2日、小学校の先生6名が当JAの農家2戸で農作業体験を行いました。JA北海道青年部連合会が取り組む「教員を対象とした農村ホームステイ事業」として実施されたもので、小学校児童の農作業体験が定着し、農業とふれあい感動を受ける場面が生まれていますが、



最初に上島宅に全員集合し三浦青年部長から概要説明



レタス定植前に先生がトラクターで耕起

子ども達だけでなく学校の先生も体験してみたいとの声を受け、地域のJA青年部が先生の農作業体験の場を提供し、体験を通じてふれあいを深め教員と農業者が一緒に子どもたちに「食や地域の大切さ」を伝えようという取組みです。

参加したのは、美唄市峰延小学校2名、岩見沢市北真小学校4名で合計6名の先生、農作業の体验は3名が上島達也さん宅（光珠内

メロンの箱詰めを行つた先生は全ての作業でメロンを丁寧に壊れ物のように取り扱うことに驚き、

南）でメロンの箱詰め、残りの3名が三浦義信さん宅（峰樺一区）でレタスの定植、いずれも日帰り農作業体験です。

この農作業体験を実施した青年部の皆さん、三浦泰来部長（峰樺一区）、中越健祐副部長（中小屋）、城山展彰会計（豊葦）、上島達也組織専門委員長（光珠内南）、大西耕司営農専門委員長（大願）、伊藤克哉理事（中小屋）の6名です。

朝8時に上島宅に全員集合し、三浦青年部長からこの日の農作業体験の概要と日程を説明、続いて上島達也さんがメロン栽培について自宅裏手にあるビニールハウスに移動し説明を行い、その後3名は上島宅の農舎でメロンの規格分別、汚れ拭き、箱詰め、シール貼り等に取り掛かり、他の3名は三浦宅に移動し定植する畑を3名の先生が交代でトラクターに乗り耕起、苗籠にレタスの苗を入れ一定間隔で印を付けた畑に苗を丁寧に植えました。

JA女性部（吉村俊子部長）が、「部員1人タオル1本運動」を実施、部員から提供を受けたタオル・綿布を美唄市峰延町公園にある恵風園・恵祥園の高齢者福祉施設に寄贈しました。

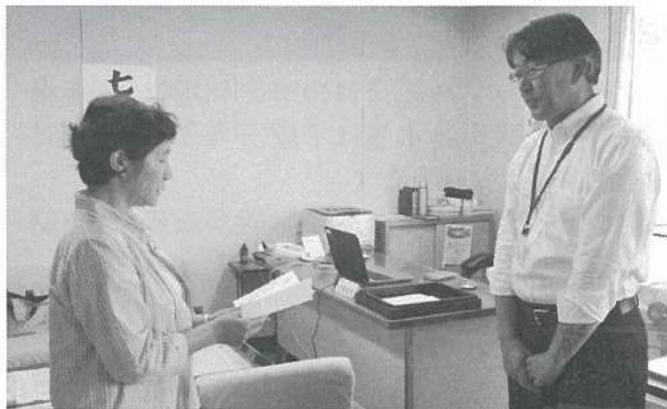
この事業は全部員参加の運動として、粗品や記念品でもらう新品

定植する間もなくどこから集まつてきたのか青虫の原因となるたくさんのモンシロチョウが苗に舞いました。

昼食後は、全員で当JAの精米施設内を見学、担当職員から説明を受けました。最後は、全員で三浦宅の農舎内でジンギスカンと生ビールで懇親会を行い、三浦さんで収穫したニンニクのホイル焼きが提供されました。懇親会では空知青年部連合会副会長を務める当JAの沼田昌樹さん（拓北）が加わり懇親を深めています。この日は晴れでしたが、前日に雨が降り蒸し暑い中で農作業が行われ、冷えたビールが一層美味しく喉を潤していました。

J A 女 性 部
**「部員1人タオル1本運動」で
集まつたタオルを寄贈**

JA女性部（吉村俊子部長）が、「部員1人タオル1本運動」を実施、部員から提供を受けたタオル・綿布を美唄市峰延町公園にある恵風園・恵祥園の高齢者福祉施設に寄贈しました。



寄贈品の目録を読みあげる吉村部長

のタオル1本又は使い古しの綿布（洗濯済みのもの）を持ち寄り福祉施設等で役立ててもらおうと年1回の寄贈を続けています。今年はタオル58本、綿布3.2kgが集まり、8月17日、吉村女性部長と小川副部長が恵風園・恵祥園を訪問し伊藤園長に手渡しました。伊藤園長は「園内でいつも使う必需品なので大変有難い。」と感謝を述べました。

吉村女性部長は、「女性部は今後もこのような福祉に役立つ運動を継続していきます。」と述べました。

[連載]今こそJA!～その意義と役割～

第5回 日本の農協はなぜ出来たか？

我が国では戦後間もない1948年（昭和23年）に農業協同組合が発足しました。

戦前には産業組合、戦中には農業会とその形を変えながら、日本の農協はどのようにして出来たのでしょうか？以下、報徳生活読本Vからの引用になります。

戦前は「地主」と「小作農」による半封建的な農地所有制度が固定化していましたが、戦後、民主化政策の一環として、地主が所有していた多くの農地を国が強制的に買い上げ、これを小作農に安く売り渡す「農地改革」が断行されました。小作農が自作農になるのは画期的なことでしたが、彼らには経済的な基盤もなく、資金の蓄えもほとんどありませんでした。このままでは自作農が再び小作農へと転落してしまう恐れがあり、さらに飢餓にあえぐ国民の食料供給をどう果たしていくかが国家としての至上命題でもありました。こうした問題を解決するために農協が組織されたのです。

新たに誕生した農協は、組合員が資金を出し合ってお互いに融通し合い、生産資材や生活物資の共同購入や生産した農産物の共同販売を行う総合農協としての機能を最大限に發揮していました。その結果、我が国の農業生産は飛躍的に拡大し、国民の食料供給に大きく貢献することになりました。

現在の日本農業は担い手の高齢化や後継者不足といった問題に直面しており、農協も組合員の減少や生産基盤の減少により組織や事業の見直しを迫られていますが、組合員と地域のために農協は現在も地道な活動を続けているのです。



野菜不足解消にこの一杯 !!

栄養機能食品(ビタミンB12)

野菜酵素 青汁

甘みのあるおいしい抹茶風味の

青汁に植物由来の野菜酵素をプラス

【商品の特徴】

1. 5種類の青汁原料を使用

- ・栄養価の高い大麦若葉の新芽のみを選別し、贅沢に使用しています。
- ・その他に、ケール、ゴーヤ、桑の葉、明日葉も使用しています。

2. 108種類の野草・野菜・果物・海藻類を発酵させた食物酵素を配合

3. お茶感覚で楽しめる抹茶風味



●こんな方にお勧めします

- ・食生活が偏りがちな方
- ・生活習慣が不規則な方
- ・便秘気味で毎朝すっきりしない方
- ・美容と健康が気になる方

おいしさが違います
是非、お試し下さい

●お召し上がり方

- ・1包を100~150ccの水又はお湯に溶かしてお召し上がり下さい。
- ・1日1~3包程度を目安にお召し上がり下さい。
- ・牛乳やヨーグルトに混ぜても美味しいお召し上がりいただけます。

商品のお問い合わせ・お求めは

JA北海道厚生連 配置薬課

フリーコール 0120-99-4193

JJA北海道厚生連 またはお近くのJA配置薬修進員までどうぞ。

救急 の よ クス リー

三浦 真希子：090-6211-6997

准組合員について学ぶ(全4回シリーズ)

平成26年5月、「規制改革会議 農業ワーキンググループ」が『准組合員の事業利用は、正組合員の事業利用の2分の1を越えてはならない』との意見を示し、農水省は平成33年3月末までに准組合員の事業利用量を規制するか否かの結論を出す予定にあります。

この規制が、利用者である准組合員に留まらず、地域の農業や経済への影響があることを認識したうえで、組合員の皆さん一人ひとりにお考え頂きたいと思います。

【第1回】准組合員制度の成り立ち



生徒

僕のお父さんは、一般企業のサラリーマンだから、JAの准組合員として出資・加入しているけど、准組合員ってどういう人を言うのかな?JAは、農業者のための組織だつて聞いたよ。



先生

JAは、農業者が自ら利用するために出資して設立・運営している組織だけど、地域の皆さんも准組合員として加入して事業を利用できるんだ。ただ、役員選挙権や議決権等のJA運営に関わる権利は農業者に限定されているよ。



生徒

准組合員として加入すれば、地域に住んでいる僕たちもJA事業を利用できるんだね。准組合員の仕組みは、どうして生まれたの?



先生

昭和22年に公布された「農業協同組合法」で、組合員を『正組合員(農業者)』と『准組合員』に分けたことが、はじまりだよ。

出資をすれば誰でも組合員になれる産業組合の流れを引き継いだことが大きいよ。産業組合は農業者の組織だったけど、全国的には組合員の3分の1は地域の皆さんだったんだ。



生徒

そつかあ。もともと、地域に住む人たちのための組織でもあつたんだね。でも、JA以外にもお店があつたんじゃないのかな?



先生

昭和22年当時の農村は、商業施設や金融機関があまりなくて、JAが利用できないと生活しにくいという現実的な側面もあったんだよ。



生徒

なるほどね。今も昔も、地域の生活の中心にはJAがあつたんだ。僕も働くようになつたら、准組合員になってJA事業を利用するよ。

JAグループ通信

No.13

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
 JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、
 組合員の皆様に定期的にお伝えします。
 各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



6月11日に全道3会場（JAさつぽろ、JA帯広かわにし、JAしべちゃ）にて「みんなのよい食JA親善大使」を開催しました。この取組みは、北海道コンサドーレ札幌の選手がJA親善大使として、子どもたちと共に「よい食」と何かを考え、食の大切さや地域の農業の役割を再認識してもらうものです。合計約200人の子どもが参加し、特に自分たちで調べて問題を考えた「北海道の食と農に関するクイズコーナー」は各会場大盛り上がり。農業への理解・関心を深めてもらうことができました。

JA北海道中央会



JA北海道信連

6月に、札幌駅前通地下歩行空間でJAバンクのPRイベントを行いました。

当日は、「ドドーン貯金キャンペーン」のPRや若手女性農業者集団「Linx」の内山佳奈さんによるトークショー、「ちよりス」グッズの当たる「クイズ大会」等を実施しました。また、「ローン相談コーナー」の設置やSNSに「ちよりス」の写真を投稿した方へ記念品を配布する等、JAバンクを広くPRできました。



JA共済連北海道



組合員・利用者の皆さまへ事業概要や支払規模、経営の健全性をご紹介する資料として、平成28年度の事業概要をまとめリーフレット「JA共済 安心めつせーじ」を発行しました。

「ひと・いえ・くるま」の主な保障の保有実績や共済金支払実績、経営状況や地域貢献活動への取組みなどをわかりやすく説明しています。今後も、皆さんに安心してご利用していただくため、情報をお届けして参ります。



ホクレン



JA北海道厚生連



ホクレンでは、今後の営農の参考にしていたため、地域に応じたスマート農業技術の紹介に取り組んでおります。7月1日に開催した上川地区のフェアでは、圃場水管理、ハウス関連機器、アシストスチーツ、センシング関連、ドローン、GPS自動操舵の6分野で新技術の紹介やセミナーを実施し大勢の生産者や関係者に来場いただきました。

今後も、スマート農業の普及に向けて情報発信に努めています。

今後もよりいつそう充実したホームページにしていきますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

JAグループ通信

No.14

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、
組合員の皆様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

准組合員制度の成り立ちや准組合員が地域を支える実態、規制改革推進会議が准組合員利用規制を迫る背景などを、平易な対話形式により表現しております。中央会のホームページに資料を掲載しておりますので、ご覧ください。

昨年12月の「農協改革」に関する組合員向け資料に引き続き「准組合員制度」についての組合員向け資料を作成しました。

准組合員利用規制に関して、農林水産省が結論を出す期限の平成33年3月末が迫る中、准組合員利用規制が及ぼす影響を、組合員の皆さん一人ひとりが考えるきっかけとしての活用を目的としております。本資料は、准組合員制度の成り立ちや准組合員が地域を支える実態、規制改革推進会議が准組合員利用規制を迫る背景などを、平易な対話形式により表現しております。中央会のホームページに資料を掲載しておりますので、ご覧ください。

JA北海道中央会



8月に、小学生の親子を対象とした「旬食カレッジin旭川」「収穫・料理教室」をJAあさひかわの協力を受け開催しました。

大根の収穫体験、収穫した大根を使つた料理教室、農業者による講演等を実施するなど、「食材が畑から食卓に並ぶまで」を体験していただき、農業・食の大切さを伝えることができました。参加者には、「農家を感じた」「また参加したい」など好評でした。



ホクレン



↑登録は
こちらから

LINE@等を活用した生産者向け情報発信サービス「ホクレンインフォメーション」では生産者の皆様に向けたイベントや新商品の情報、生産資材（飼料や農薬など）価格、スマート農業情報などの営農情報をタイムリーに発信しております。今後とも生産者の皆様に役立つ情報を発信してまいりますので、ぜひお手持ちのスマートフォンやパソコン(<http://hokuren-news.jp/>)からご登録ください。

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るために、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報をお届けしております。

ホームページにも
バツクナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JA北海道厚生連

8月4日、札幌にて「全道LA・スマサポ大会」を開催し、全道JAの中から、平成28年度普及活動で優秀成績を収めたLA38名と、スマイルサポート11名が登壇し、表彰しました。JA共済では、これからも「3Q訪問活動」と「あんしんチェック（保障点検活動）」の実践を通じて、組合員・地域利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」の提供に努めて参ります。



JA北海道信連



JA共済連北海道

